

採血困難患者の傾向を探る研究

◎鈴木 聖矢¹⁾、谷淵 将規¹⁾、飯田 ひかり¹⁾、河村 静恵¹⁾、栗原 直子¹⁾
静岡済生会総合病院¹⁾

【背景】当院の外来採血室は、23の診療科から約200名/日を採血している。そのうち、2回以上の穿刺を余儀なくされる採血困難患者を対応する事がある。そこで我々は、採血容易患者と採血困難患者の違いについて傾向や規則性があるのではないかと考え、採血で2回以上の穿刺となった採血困難者患者について検討した。

【目的】検討の目的は、採血困難患者の傾向を捉える事である。事前に採血困難患者と判定可能になれば採血困難患者疑いもしくは採血困難患者に対しての初回採血は採血熟練者に依頼し2回以上の穿刺となるリスクを軽減し円滑な採血業務に寄与できると考えた。

【対象・方法】2023年6月～10月の期間で採血が施行された患者において穿刺回数が2回以上となった（追加検査のための採血は除く）226名を採血困難患者とした。また、期間中の総採血患者数は20876名であった。226名の特徴を検討するために診療科（23科）・年齢・性別の3項目について統計をとった。

【結果】全体：226名 年齢中央値73歳（10～96歳）
消化器内科：35名 年齢中央値73歳（43～90歳）
呼吸器内科：31名 年齢中央値75歳（34～92歳）
血液内科：27名 年齢中央値75歳（52～95歳）
外科：23名 年齢中央値61歳（36～89歳）
腎臓内科：21名 年齢中央値74歳（33～89歳）
男性：121名、女性：105名

【考察】当院では、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、外科、腎臓内科の順で採血困難患者が多く、年齢は70歳代に多い傾向であった。男女差に大きな違いは認めなかった。また、外科や腎臓内科では乳房切除やシャントにより、初めから片腕しか採血する選択肢がなく難易度の高い血管から採血した患者が多かったことが2回以上の穿刺に影響していると考えられる。

【結語】本検討では、診療科別・年齢別・性別の3点で採血困難患者の明らかな傾向を見いだすことはできなかった。今後は、さらに詳細な検討とデータの蓄積が望まれる。

TEL：054-285-6171（内線：2171）